令和７年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」

『京都観光の付加価値向上に寄与する産学官連携アップデートプログラムの推進』

成果報告書

令和８年２月

学校法人　大和学園

京都ホテル観光ブライダル専門学校

taiwa

THE ACADEMY OF HOSPITALITY

目次

１．事業概要

１．１－事業の趣旨・目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３
１．２－実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４
１．３－全体スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ５
１．４－構成機関・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ６
１．５－メンバー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ７

２．事業成果について

２．１－各委員会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ８
２．２－動画コンテンツの制作・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１２
２．３－リカレント教育紹介パンフレットの制作・・・・・・・・・Ｐ１４
２．４－Ｗｅｂサイトの制作およびＷｅｂ広告の展開・・・・・・Ｐ１５
２．５－第１期プログラムの開講・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１６
２．６－リカレント教育の啓発・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１７
２．７－先行事例調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１８

３．次年度に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１９

１．事業概要

１．１－事業の趣旨・目的

世界中で観光の再開が進み、日本国内でも入国制限の緩和や全国旅行支援によって回復基調にあるなか、旅行者の持続可能な観光に対する関心の高まりなど、これまでの観光ではなく新しいかたちの観光が求められている。またコロナ禍前から指摘されていた観光業界における労働生産性の低さや、人材不足といった積年の課題を抱えるなか、需要の高まりに応えるという観点では、特に人材確保や人材育成により一層注力し、観光産業の持続可能性を高めることが重要である。こと宿泊業においては、接客で得られる経験や体験は顧客の記憶に残り、質の高いおもてなしによって付加価値の向上、ひいては生産性の向上に寄与することができると考える。合わせてデジタル・テクノロジーを活用した観光体験の高度化、スマート化が見られるなど、DX による生産性向上、付加価値向上の可能性も大きくなっている。さらに、環境や社会に配慮したサービスを提供するなど、持続可能な社会の実現を目指し SDGs に貢献する取り組みも広がっており、観光業界における最新技能アップデートの必要性は高い。

そして京都は上質宿泊施設誘致制度により、経済の活力と市民生活の豊かさを牽引し、千年先も京都が京都であり続けるための持続可能な社会の実現を目指すため、多様で質の高い宿泊施設の誘致がなされ、今後も 10 件以上のラグジュアリーホテルの開業が予定されている。2025 年の大阪・関西万博をはじめ観光の起爆剤となるイベントを控える中、世界の脚光を浴びる絶好のチャンスである。今こそ、持続可能で強靭な観光の実現に向けては、最新の技術・知識をアップデートする教育プログラムの推進が不可欠であると確信する。労働者の立場でみても、さまざまな調査結果において他産業に比べ労働処遇条件の低いことが課題になっている。当事業を通じて、職業の魅力を高めるとともに、労働処遇条件を改善するといった気運を京都から高めていければ、観光業で働く人材の増加など好循環につながると考える。

今回の事業では、高等教育機関を中心に、企業・団体・行政等と連携し、具体的な取組を進めていくなかで、世界文化観光都市・京都の観光業で働く魅力を高めることで人材確保と人材育成につなげ、京都観光の付加価値向上に寄与する。

１．２－実施体制

本事業では、直接的なインパクトがある宿泊（ホテル・旅館）業界のみならず、行政や各種団体、メディア、観光 DX 系企業、金融機関、インフラ・交通系企業などあらゆるステークホルダーのメリットを最大化できるよう幅広い連携機関を構成することで競争優位性を高めた。また、持続可能な京都観光の実現に向け、京都観光を支える人材の育成・成長を図ることを目的として、2023 年 3 月 29 日に設立された京都観光アカデミーとも深く連携し、観光人材の育成のためのプログラム情報を発信した（当校は協力機関）。同アカデミーのつながりに基づき、同じく協力機関である京都大学 MBA とも連携することで、専門的職業人材から経営人材まで、モレなく幅広い層に対してプログラムを提供した。

また、事業運営、プログラム検討、外部評価委員会の 3 つの委員会により事業を推進した。それぞれの役割は以下の通り。

（1）事業運営委員会

事業開始から終了まで事業全般のコーディネートを行った。また、各委員会との連携や事業全体のスケジュールや予算執行状況について管理するなど、プロジェクト全体をとりまとめた。

（2）プログラム検討委員会

産学官連携による「アップデートプログラム」の検討・開発に向けた事項を検討した。委員会では、今回開発するプログラムの具体的な教育の枠組みについて議論を深めるとともに、京都観光の付加価値向上に寄与する人材の育成・アップデート対する意見を幅広く委員会に集約し、プログラムに反映した。連携機関については、京都で付加価値の高いサービスを提供しているホテル・旅館や、全国で数多くのホテルを運営する企業、グローバルにホテルを展開しながら、人材育成にも積極的なホテルを中心に構成した。

（3）外部評価委員会

学外の有識者、企業・団体等で構成する委員会を立ち上げ、教育コンテンツの実証後の評価を行い、以降の改善につなげた。また、行政から京都府・京都市・宮津市の観光政策に携わる委員を招聘することで、京都府・京都市・宮津市のそれぞれが抱えるホスピタリティ業界の課題解決につながるプログラム開発を行った。

１．３－全体スケジュール（令和７年度）

※期間：令和７年６月～令和８年２月

（1）会議体について

・事業運営委員会の開催(5/30、6/17、7/14、9/3、10/8、11/12、12/24、1/9)

・プログラム検討委員会の開催（7/1、12/3、1/21）

・外部評価委員会の開催（7/8、12/4、1/21）

（2）プロジェクトについて

①	プロジェクト連携体制の構築
②	動画コンテンツの制作
③	リカレント教育紹介パンフレットの制作
④	Ｗｅｂサイトの制作およびＷｅｂ広告の展開
⑤	第３期プログラムの開講
⑥	リカレント教育フェアの開催
⑦	先行事例調査

※プロジェクトに関する具体的な成果については後述。

（3）開発する講座の概要

①名称・オンライン：“京都発”観光ホスピタリティの未来形

・対面１：問い直す、ホスピタリティ。－“気づき”と“深まり”の 4 日間－

・対面２：ホスピタリティ再創造プログラム in 京都－これからのホスピタリティー

②講座に関する基本情報

基本情報	内容・目標等
対象とする職業・分野	宿泊業（ホテル・旅館等）
学習ターゲット、目指すべき人材像	部下の育成に役立てたいホテル・旅館の管理職や自身のアップデートに役立てたいホテル・旅館スタッフをターゲットに、付加価値を高められる人材を目指す
対象者のレベル（当該プログラムの内容に関する基礎知識の有無）	サービス業・ホスピタリティ業界での勤務経験があり、接客に関しての基礎知識がある者
プログラム受講後に想定される受講者のキャリア・受講者が目指す姿	宿泊業（ホテル・旅館等）のマネージャー、各部門のスペシャリスト、観光ＤＸ人材、価値創造人材
開発するプログラムの目標受講者数（１期間あたり）	全体受講１００人、部分受講１００人
開発するプログラムの想定総授業時数（１期間あたり）	オンライン 30 時間 対面１　　8 時間 対面２　　6 時間
開発するプログラムの想定受講期間（１期間あたり）	オンライン 2 カ月（10 月 1 日～11 月 30 日） 対面１　　4 日間（11 月 4、11、18、25 日） 対面２　　2 日間（12 月 8 日～9 日）
ｅ-ラーニングの実施の有無	有

１．４－構成機関

（1）構成機関（機関として本事業に参画する学校・企業・団体等）

構成機関（学校・団体・機関等）の名称		役割等	都道府県名
1	京都ホテル観光ブライダル専門学校	統括 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ検討・開発 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ評価	京都府
2	京都調理師専門学校	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ評価	京都府
3	京都製菓製パン技術専門学校	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ評価	京都府
4	裏千家学園茶道専門学校	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ評価	京都府
5	京都大学 経営管理大学院	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ検討・開発	京都府
6	立命館大学大学院 経営管理研究科	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ評価	大阪府
7	京都民際日本語学校	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ評価	京都府

（2）企業・団体

名称		役割等	都道府県名
1	株式会社C&G Value Design	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ検討・開発	福岡県
2	株式会社ジェイアール西日本ホテル開発	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ検討・開発	京都府
3	株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ検討・開発	京都府
4	東急リゾーツ＆ステイ株式会社	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ検討・開発	京都府
5	株式会社ブライトンコーポレーション	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ検討・開発	京都府
6	三井不動産リゾートマネジメント株式会社	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ検討・開発	京都府
7	ザ・リッツ・カールトン京都	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ検討・開発	京都府
8	炭屋旅館	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ検討・開発	京都府
9	十四春旅館	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ検討・開発	京都府
10	株式会社ＡＺＯＯ	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ評価	京都府
11	株式会社オータパブリケイションズ	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ評価	東京都
12	株式会社京都銀行	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ評価	京都府
13	京阪ホールディングス株式会社	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ評価	京都府
14	じゃらんリサーチセンター（株式会社リクルート）	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ評価	東京都

（3）行政機関・その他

名称		役割等	都道府県名
1	京都府 商工労働観光部 観光室	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ評価	京都府
2	京都府生涯現役クリエイティブセンター	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ検討・開発	京都府
3	京都市 産業観光局 観光MICE推進室	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ検討・開発	京都府
4	宮津市 産業経済部 商工観光課	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ評価	京都府
5	一般社団法人京都府専修学校各種学校協会	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ評価	京都府
6	京都府旅館ホテル生活衛生同業組合	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ評価	京都府
7	公益社団法人京都府観光連盟	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ検討・開発	京都府
8	公益社団法人京都市観光協会	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ評価	京都府

１．５―メンバー一覧【敬称略】

―事業運営委員会

氏名		所属・職名	役割等
1	作岡　友樹	学校法人大和学園京都ホテル観光ブライダル専門学校　校長代行	委員長
2	奥山　勉	学校法人大和学園京都ホテル観光ブライダル専門学校　副校長	副委員長
3	高岡　良明	学校法人大和学園京都ホテル観光ブライダル専門学校　広報渉外部　部長	委員
4	楠井　秀和	学校法人大和学園京都ホテル観光ブライダル専門学校　教務部　部長	委員
5	辻　智子	学校法人大和学園京都ホテル観光ブライダル専門学校　就職部　部長	委員
6	藤　寛薫	学校法人大和学園京都ホテル観光ブライダル専門学校　就職部　次長	委員
7	前川　夏子	学校法人大和学園京都ホテル観光ブライダル専門学校　生涯学習事業推進室　室長	委員
8	田中　幹人	学校法人大和学園　副理事長	ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ

―プログラム検討委員会

氏名		所属・職名	役割等
1	作岡　友樹	学校法人大和学園京都ホテル観光ブライダル専門学校　校長代行	委員長
2	奥山　勉	学校法人大和学園京都ホテル観光ブライダル専門学校　副校長	副委員長
3	楠井　秀和	学校法人大和学園京都ホテル観光ブライダル専門学校教務部　部長	委員
4	藤　寛薫	学校法人大和学園京都ホテル観光ブライダル専門学校就職部　次長	委員
5	前川　夏子	学校法人大和学園京都ホテル観光ブライダル専門学校　生涯学習事業推進室　室長	委員
6	若林　直樹	京都大学経営管理大学院　教授	委員
7	挽田　善一	株式会社 C&G Value Design　執行役員 CDO 事業開発チーム担当役員社長室室長	委員
8	三浦　覚	株式会社ジェイアール西日本ホテル開発　常務取締役　ホテルグランヴィア京都総支配人	委員
9	松本　伸夫	株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド 常務執行役員 西日本クラスター担当兼びわ湖大津プリンスホテル総支配人	委員
10	花園 元	東急リゾーツ＆ステイ株式会社ホテル運営統括部 関西ｴﾘｱ業務推進 G 兼総務人事統括部人事部人財開発 G	委員
11	林　惠子	株式会社ブライトンコーポレーション　ブランドコミュニケーション担当支配人	委員
12	國府　昭義	三井不動産リゾートマネジメント株式会社　HOTELTHEMITSUI KYOTO/HAKONE 副総支配人(箱根) 兼 人材開発部長(京都/箱根)	委員
13	中村　千晴	ザ・リッツ・カールトン京都　クラスターラーニングディレクター	委員
14	堀部　寛子	炭屋旅館　女将	委員
15	玉垣　多佳子	十四春旅館　若女将	委員
16	前田　志津江	京都府生涯現役クリエイティブセンター　事務局長	委員
17	西田 真也	京都市 産業観光局 観光 MICE 推進室　宿泊環境整備課長　西田 真也	委員
18	四辻　清美	公益社団法人京都府観光連盟　専務理事	委員
19	田中　幹人	学校法人大和学園　副理事長	ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ

―外部評価委員会

氏名		所属・職名	役割等
1	作岡　友樹	学校法人大和学園京都ホテル観光ブライダル専門学校校長代行	委員長
2	奥山　勉	学校法人大和学園　京都ホテル観光ブライダル専門学校　副校長	副委員長
3	高岡　良明	学校法人大和学園京都ホテル観光ブライダル専門学校　広報渉外部　部長	委員
4	辻　智子	学校法人大和学園　京都ホテル観光ブライダル専門学校　就職部　部長	委員
5	伊住　宗禮	裏千家学園茶道専門学校　副校長	委員

6	肥塚　浩	立命館大学大学院経営管理研究科　教授	委員
7	住田　伸夫	京都民際日本語学校　企画開発部 部長	委員
8	横田　裕子	株式会社ＡＺＯＯ　代表取締役	委員
9	池田 俊	株式会社オータパブリケイションズ　営業部人材課　課長	委員
10	吉田　敏宏	株式会社京都銀行　人事総務部長兼人事総務部金融大学校長	委員
11	藤田 智子	京阪ホールディングス株式会社　経営企画室体験価値共創担当 課長	委員
12	沢登 次彦	じゃらんリサーチセンター（株式会社リクルート）　センター長	委員
13	西田　剛	京都府 商工労働観光部 観光室　室長	委員
14	前田　繁	宮津市 産業経済部　部長	委員
15	橋詰彩佳	一般社団法人京都府専修学校各種学校協会　事務局	委員
16	磯橋　輝彦	京都府旅館ホテル生活衛生同業組合　理事長	委員
17	南 隆博	公益社団法人京都市観光協会　担当部長	委員
18	田中　幹人	学校法人大和学園　副理事長	ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ

２．事業成果について

２．１－各委員会の開催

（1）事業運営委員会

【文科省事業リカレント教育】事業運営委員会①

＜日時＞　2025 年 05 月 30 日（金）16:15 ～ 16:45

＜会場＞　事務局ミーティングスペース

＜議題＞　協議 1．2025 年度の取り組み　　協議 2．企業・団体との連携等

＜出席＞　８名

【文科省事業リカレント教育】事業運営委員会②

＜日時＞　2025 年 06 月 17 日（火）16:00 ～ 16:30

＜会場＞　事務局ミーティングスペース

＜議題＞　協議 1．2025 年度の取り組み　　協議 2．企業・団体との連携等

＜出席＞　８名

【文科省事業リカレント教育】事業運営委員会③

＜日時＞　2025 年 07 月 14 日（月）16:30 ～ 17:00

＜会場＞　事務局ミーティングスペース

＜議題＞　協議 1．2025 年度の取り組み　　協議 2．企業・団体との連携等

＜出席＞　８名

【文科省事業リカレント教育】事業運営委員会④

＜日時＞　2025 年 09 月 03 日（水）12:30 ～ 13:00

＜会場＞　事務局ミーティングスペース

＜議題＞　協議 1．2025 年度の取り組み　　協議 2．企業・団体との連携等

＜出席＞　８名

【文科省事業リカレント教育】事業運営委員会⑤

＜日時＞　2025 年 10 月 08 日（水）15:45 ～ 16:15

＜会場＞　事務局ミーティングスペース

＜議題＞　協議 1．2025 年度の取り組み　　協議 2．企業・団体との連携等
＜出席＞　８名

【文科省事業リカレント教育】事業運営委員会⑥
＜日時＞　2025 年 11 月 12 日（水）15:00 ～ 15:30
＜会場＞　事務局ミーティングスペース
＜議題＞　協議 1．2025 年度の取り組み　　協議 2．企業・団体との連携等
＜出席＞　８名

【文科省事業リカレント教育】事業運営委員会⑦
＜日時＞　2025 年 12 月 24 日（水）10:30 ～ 11:00
＜会場＞　事務局ミーティングスペース
＜議題＞　協議 1．2025 年度の取り組み　　協議 2．企業・団体との連携等
＜出席＞　８名

【文科省事業リカレント教育】事業運営委員会⑧
＜日時＞　2026 年 1 月 09 日（金）09:30 ～ 10:00
＜会場＞　旅行セールス実習室
＜議題＞　協議 1．2025 年度の取り組み　　協議 2．企業・団体との連携等
＜出席＞　８名

（2）プログラム検討委員会

【文科省事業リカレント教育】プログラム検討委員会①（オンライン）
＜日時＞　2025 年 07 月 01 日（火）14:00 ～ 15:30
＜議題＞　（１）2024 年度成果報告
（２）2025 年度概要並びに 2025 年度開講プログラム案
（３）企業奨学金構想の進捗等
＜出席＞　13 名



【文科省事業リカレント教育】プログラム検討委員会②（オンライン）
＜日時＞　2025 年 12 月 03 日（水）14:00 ～ 15:30
＜議題＞　（１）2025 年度の成果報告
（２）京都ホテル観光ブライダル専門学校の取組

（３）産学公協働モデルの創出
（４）今後のリカレント教育

＜出席＞　18 名



（３）外部評価委員会

【文科省事業リカレント教育】外部評価委員会①（オンライン）

＜日時＞　2025 年 07 月 08 日（火）14：00～15：30

＜議題＞　（１）2024 年度成果報告
（２）2025 年度概要並びに 2025 年度開講プログラム案
（３）企業奨学金構想の進捗等

＜出席＞　12 名



【文科省事業リカレント教育】外部評価委員会②（オンライン）

＜日時＞　2025 年 12 月 04 日（木）15:00 ～ 16:00

＜議題＞　（１）2025 年度の成果報告
（２）京都ホテル観光ブライダル専門学校の取組
（３）産学公協働モデルの創出
（４）今後のリカレント教育

＜出席＞　８名



（4）プログラム検討および外部評価合同委員会

【文科省事業リカレント教育】プログラム検討および外部評価合同委員会③（オンライン）

＜日時＞　2026 年 01 月 21 日（水）14:00 ～ 15:15

＜議題＞　（1）2025 年度の成果報告

（2）観光ホスピタリティ人材の確保・育成・定着に向けて

＜出席＞　17 名



２．２－動画コンテンツの制作

（1）講座用動画（10 本）

オンラインプログラムとして開講できる動画を以下の通り 10 本制作した。。

①ホスピタリティ業界の未来展望-1（GOOD NATURE HOTEL KYOTO 総支配人　北田　萌子）
②ホスピタリティ業界の未来展望-2（GOOD NATURE HOTEL KYOTO 総支配人　北田　萌子）
③料亭のホスピタリティ-1（山ばな 平八茶屋　園部　晋吾）
④料亭のホスピタリティ-2（山ばな 平八茶屋　園部　晋吾）
⑤VR で学ぶホスピタリティ（大和学園　新規事業・イノベーション推進室　室長　池田　隆二）
⑥心に響くおもてなしの真髄-1（近鉄・都ホテルズ 取締役　楳垣　真弓）
⑦心に響くおもてなしの真髄-2（近鉄・都ホテルズ 取締役　楳垣　真弓）
⑧明日をちょっと良くするヒント（温故知新 人事部 ディレクター　井上　真里）
⑨今求められるホスピタリティとは？（エースホテル京都 ウエディング・ディレクター　一色 浴果里）
⑩プロとしての“おもてなし力”を深める（十四春旅館　若女将　玉垣　多佳子）













（2）多言語動画（12 本）

グローバルに学んでもらうために外部に公開する英語版動画を以下の通り 12 本制作した。

①ベッドメイクの基本
②ルームインスペクションの基本
③会計業務の基本
④フルサービス型ホテルのエスコート（ホテル到着からゲスト目線の動画）
⑤旅館のおもてなし
⑥リミテッドサービス型ホテルのスマートチェックイン（予約からチェックアウト）
⑦レストラン応用Ⅰ　お迎え・チェアサービス・お水のサービス
⑧レストラン応用Ⅱ　オーダーテイク・料理の提供・プレゼン・サーバー・チューリン
⑨レストラン応用Ⅲ　お味の伺い・下げもの・コーヒーのサービス
⑩レストラン応用Ⅳ　チェアサービス・送賓・バッシング・セッティング
⑪レストラン応用Ⅴ　HRS実技試験対策　朝食
⑫レストラン応用Ⅵ　HRS実技試験対策　ランチ



（3）リカレント教育およびホスピタリティ業界魅力喚起動画（20 本）

宿泊業におけるリカレント教育の重要性や、ホテル旅館で働く興味関心向上・イメージアップ、京都で働く魅力を発信するなど、宿泊業で働くことに対するプライド（愛着と誇り、自負）を高め、アップデートプログラムの受講促進やモチベーション維持向上による受講継続率向上につなげた。また副次的効果として、人材不足に悩む宿泊業に興味を持つ層の裾野を広げる取り組みを推進することで、人材不足解消に対しても一役を担った。



（4）成果報告動画（1 本）

当事業の成果報告動画を制作し、取組内容や成果について発信を強化、周知、普及を図った。

２．３－リカレント教育紹介パンフレットの制作

当校のリカレント教育の取り組みを紹介するパンフレットを継続してブラッシュアップ、制作することで、宿泊業におけるリカレント教育に対する理解を深めるとともに、当校のプログラム受講を促進。内容は、宿泊業をはじめとしたホスピタリティ業界で活躍する人物の声を取り上げ業界の魅力を発信したり、リカレント教育の重要性を訴求した。制作したパンフレットはホテルや旅館に配布するほか、京都府生涯現役クリエイティブセンターなど公共施設にも働きかけ幅広い周知につなげた。





２．４－Ｗｅｂサイトの制作およびＷｅｂ広告の展開

当校のリカレント教育の取り組みを紹介する Web サイトを制作。当校のリカレント教育プログラムの情報の発信だけでなく、同時に制作するパンフレットや動画との連動を図り、成果の相乗効果を図った。また、現在の環境に変化を求めている、新たなチャレンジをしたいと考えている人にも情報が届くよう、Web 広告を展開して Web サイトへのアクセスを誘引することで、ホテル旅館で働く人以外（サービス業・ホスピタリティ業界で働く人や働きたいと考える人）に対しても認知を拡大させた。

Ｗｅｂサイト　https://hotelschoolkyoto.com/



Ｗｅｂ広告





















２．５－第３期プログラムの開講

ホテル・旅館関係者が特に重要と考えるキーワードをもとに授業を設定。今年度はホスピタリティを大テーマとしてプログラムを構築し、実証した。オンラインプログラムと対面プログラム２種を展開したが、対面１つは２日間連続開催として遠方からの受講生も参加できる仕組みにした。結果首都圏からの参加など対面プログラム参加エリアの拡大につながった。また、講義終了後は質疑応答に加え、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションを盛り込み知識の定着につなげた。

オンラインプログラム『“京都発”観光ホスピタリティの未来形』

１．期間：2025 年 10 月 1 日～11 月 30 日（2 カ月で 30 時間）

２．受講：オンライン

３．参加：284 名（全体受講 192 名、テーマ別 30 名、部分受講 62 名）
（個人単位　161 名、法人単位　123 名）

４．内容：

開講科目一覧
テーマ１【観光×接遇・付加価値】
①　すべてはお客様のために （Fantagista21 代表 L’Effervescence プルミエ メートル ドテル　宮崎 辰）
②　ソムリエというスペシャリスト （株式会社 HUGE コーポレート ソムリエ　石田 博）
③　満足を感動に変える （ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜 総支配人　阿部 泰年）
④　「学ぶ」とは？

（人とホスピタリティ研究所 代表　高野 登）
⑤ おもてなしで選ばれるホテルであるために～女性総支配人のチャレンジ
（リーガロイヤルホテル取締役 総支配人　中川 智子）
⑥ 文化との融合
（ザ・ホテル青龍 京都清水 元総支配人　広瀬 康則）
⑦ ユニークベニューの取組み
（公益財団法人京都文化交流ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝﾋﾞｭｰﾛｰ国際観光ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ部 MICE 誘致推進課 課長　松井 良彰）
⑧ ホテル商品開発
（lyf 銀座東京支配人 lyf 統括支配人　井上 絵梨）
⑨ LGBTQ フレンドリーなおもてなし
（カラフル　本田耕志・松本 友生）
⑩ 高付加価値旅館経営を目指して
（おごと温泉 湯元舘 社長室長 人事課長　國松 隼人）

テーマ２【観光×DX・テクノロジー】

① 宿泊業 DX で実現する生産性と宿泊体験の向上
（株式会社 AZOO 代表取締役　横田 裕子）
② DX 推進のポイント
（京なか株式会社 代表取締役　桂田 佳代子）
③ デジタルマーケティング
（株式会社デイアライブ プランナー ／ マーケティング　足立 奏世）
④ スマホを使った魅力的な写真の撮り方
（デザインとカメラの教室「torico.camera」主宰　松村 シナ）
⑤ PR プランナーから学ぶ観光 PR
（Spine. PR プランナー　辻本 哲郎）
⑥ デジタルを活用した次世代観光
（SNS マーケティング / Instagram コンサルタント　藤木 園実）
⑦ ホテルでの導入事例
（ヒルトン テクノロジーフィールドサービス統括部長　中野 博文）
⑧ 宿泊施設における SNS マーケティングの重要性とその展開
（株式会社 micado 代表取締役 社長　田代 貴彦）
⑨ ホテル現場におけるロボット導入の最新動向
（株式会社 FUTURE 代表取締役社長　谷口 賢）
⑩ 売上と利益の改善へと導く DX ソリューション
（株式会社 Nazuna 代表取締役 CEO　渡邊 龍一）

テーマ３【観光×京都・文化】

① これからのホスピタリティ業界 日本の伝統を次世代につなぐ
（株式会社和える 代表取締役　矢島 里佳）
② 旅館業におけるチャレンジ
（十四春旅館 若女将　玉垣 多佳子）
③ SDGｓとこれからの京都観光～京都観光振興計画 2025～
（京都市産業観光局観光ＭＩＣＥ推進室 観光戦略課長　吉岡 久美子）
④ 京都の文化～いけばな～
（桑原専慶流次期家元　桑原 健一郎）
⑤ 京都の観光～外国人に人気の観光名所～
（京都旅屋 代表　吉村 晋弥）
⑥ 和菓子の魅力
（高島屋 MD 本部・和菓子バイヤー　畑 主税）
⑦ 人と文化をつなぐ寺院観光の未来
（壬生寺貫主　松浦俊昭）
⑧ 食文化 ～京料理の価値とは～

（有職料理萬亀楼 若主人　小西 雄大）
⑨ 京都市における高付加価値の観光促進とは
（公益社団法人京都市観光協会企画推進課企画官　福永 香織）
⑩ 海の京都ＤＭＯが取り組む観光ＤＸ
（一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社（海の京都ＤＭＯ）　福井 誠）

対面プログラム①『問い直す、ホスピタリティ。－“気づき”と“深まり”の４日間－』

１．期間：2025 年 11 月 4、11、18、25 日（4 日間で 8 時間）18：30～20：30
２．受講：対面
３．内容：

①「ホスピタリティ業界の未来展望」 GOOD NATURE HOTEL KYOTO 総支配人 北田 萌子	参加　7 名
②「料亭のホスピタリティ」 山ばな 平八茶屋 21 代目当主　園部 晋吾	参加　10 名
③「DX 体感～VR で学ぶホスピタリティ～」 大和学園 新規事業･ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ推進室長 池田 隆二	参加　6 名
④「心に響くおもてなしの真髄」 近鉄・都ホテルズ 取締役　楳垣 真弓	参加　4 名

対面プログラム②『ホスピタリティ再創造プログラム in 京都－これからのホスピタリティー』

１．期間：2025 年 12 月 8 日～9 日（2 日間で 6 時間）
２．受講：対面
３．参加：１０名
４．内容：

12/8（月）13：00～16：00
①特別講義Ⅰ「“結婚式の価値を再定義”　今求められるホスピタリティとは？」 エースホテル京都　ウエディング・ディレクター　一色 浴果里
②特別講義Ⅱ「プロとしての“おもてなし力”を深める」 十四春旅館 若女将　玉垣 多佳子
12/9（火）10：00～14：30
①アイスブレイク（出汁の飲み比べ）
②グループワークとプレゼンテーション
③学生レストランでの昼食
④ラグジュアリーホテルの見学

２．６（１）－リカレント教育の啓発（リカレント教育フェアの開催）

京都観光の付加価値向上に寄与する産学官連携アップデートプログラムを推進すべく、リカレント教育フェアを開催する。今後の受講生募集につなげるともに、リカレント教育を身近に感じられるよう、実際のプログラムを視聴できるようにした。

１．日時：2025/12/2 15:00-16:45
２．開催形式：ハイブリッド型（セミナーは Zoom ウェビナーでも配信）
３．参加：会場参加 11 名、オンライン参加 11 名

４．場所：京都信用金庫 QUESTION

５．プログラム：セミナー（無料：会場参加 or オンライン配信）

－事業報告「2025 年度リカレント教育の取り組み」

京都ホテル観光ブライダル専門学校　広報渉外部主任　髙橋　周二

－講演「明日をちょっと良くするヒント～温故知新の挑戦するカルチャー～」

株式会社温故知新　人事部 ディレクター　井上　真里





２．７－先行事例

調　査　名	ホスピタリティ業界の人材育成、リカレント教育実態調査
調査目的	ホスピタリティ業界の人材育成、リカレント教育の現状、課題を把握することで、当プログラムの取り組みに活かし、課題解決につなげる。
調査対象	株式会社ツカダ・グローバルホールディング、ヒューリックホテルマネジメント株式会社、アイコニア・ホスピタリティ株式会社、株式会社ハイパー、株式会社トリート、ハイアットリージェンシー東京、フェアモント東京、シャングリ・ラ 東京
調査手法	現地でのヒアリング
調査項目	①現在の経営上の課題（人材に関することを中心に） ②人材育成の取り組み状況と課題 ③人材の確保・定着に向けた取り組み（従業員の待遇改善等） ④活躍する方に共通する職業能力（コンピテンシー） ⑤リカレント教育に対しての課題意識、取り組み状況 ⑥IT 活用状況や求められる IT 人材像、IT 人材育成の施策

３．次年度に向けて

昨年度に引き続き「京都観光の付加価値向上に寄与する産学官連携アップデートプログラム」に取り組んだが、今年度の第３期プログラムでは過去最多となる受講生（のべ３２１名）を集めることができた。また、対面授業を多く取り入れディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションを盛り込み知識の定着につなげるなど一定の成果を上げることができた。その一方で、NPS や、新たに KPI に設定した修了率も目標を下回る結果となった。申込者と実際の受講人数との乖離や修了者割合の低さを改善すべく、フォローを強化したが、結果にはつながらなかった。今後は、これらの取り組みを自走化できるようプログラムとともに仕組みも含めブラッシュアップすることで、プロジェクトの自走化につなげる所存である。

＜成果報告書＞

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、学校法人大和学園京都ホテル観光ブライダル専門学校が実施した令和７年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」の成果をとりまとめたものです。